

2023年度持田記念学術賞ならびに研究助成等について

公益財団法人持田記念医学薬学振興財団（理事長：持田直幸、以下「当財団」）は2023年度の持田記念学術賞受賞者、ならびに研究助成金および留学補助金交付対象者を決定しましたのでお知らせいたします。

今年度の持田記念学術賞には16名の研究者が推薦され、その中から大阪大学/東京医科歯科大学の武部貴則博士、東京大学の岩坪威博士、大阪大学の黒崎知博博士を選出しました（褒賞金：1000万円/件）。研究助成および留学補助には784件の申請があり、研究助成金交付対象者150名（300万円/件）、留学補助金交付対象者30名（50万円/件）を選出しました。

今年度は研究者招聘助成金交付対象18学会（50万円/件）を含めて研究助成金等として総額5億400万円を贈呈します。

研究領域		研究助成	留学補助	学術賞	招聘助成
領域1	バイオ技術を基盤とする先端医療に関する研究	20件	4件	3件	18件
領域2	バイオ技術を基盤とするゲノム機能/病態解析に関する研究	19件	4件		
領域3	免疫/アレルギー/炎症/感染症の治療ならびに制御に関する研究	33件	7件		
領域4	循環器/血液疾患の病態解析/治療制御に関する研究	25件	11件		
領域5	創薬・創剤の基盤に関する研究	30件	2件		
領域6	創薬とその臨床応用に関する研究	23件	2件		
合計		150件	30件	3件	18件

当財団は1983年10月の設立以来、研究助成2756件（計58億3499万円）、留学補助621件（計3億1050万円）、持田記念学術賞81件（計4億6200万円）、研究者招聘助成317件（計1億5796万円）の総額67億6545万円の助成ならびに贈呈を行っております。当財団は、今後も多くの研究者へ研究支援を行い、医学・薬学の振興に貢献してまいります。

以上

<本件に関する問い合わせ先>

公益財団法人持田記念医学薬学振興財団 zaidan@mochida.co.jp

2023年度持田記念学術賞受賞者

武部 貴則（たけべ たかのり）博士

大阪大学大学院医学系研究科 器官システム創生学 教授

東京医科歯科大学 統合研究機構 教授

受賞研究テーマ

「ヒト器官システムの発生・再生・破綻機構の理解と制御」



武部博士は多能性幹細胞（ES, iPS 細胞）を用いて、自己組織化と呼ばれる細胞自律的な構造化過程を駆使した立体器官誘導技術を考案し、世界に先駆けて血管構造を持つヒト肝臓原基（オルガノイド）を創出することに成功しました。さらに、器官発生機構の緻密な理解に基づき、肝臓に特異的な血管系、間質系や免疫系などをはじめさらなる複雑性を加味したオルガノイドの樹立を次々と開発しています。

最近では、単一の臓器再生という考えから脱却した多臓器の連結再生という革新的な概念を提案し、肝胆膵領域の消化器官を一括創出する世界初の技術を報告しました。

さらに免疫系を兼ね備えたオルガノイドを用いて、試験管内で脂質の蓄積・炎症・繊維化といった脂肪性肝疾患の病態を人工的に再現し、患者さんに固有の遺伝的素因を同定しています。

武部博士は幹細胞からの自己組織化という極めて独創性の高い基盤研究を推進し、同時に創薬開発などを通じて実臨床への医療応用を着実に進めています。これら成果は臓器移植の代替治療にも貢献することが期待されており、世界を先導する先見的・独創的な研究業績であります。

- 主な略歴
- 1986年12月20日生
 - 2011年3月 横浜市立大学 医学部 卒業
 - 2011年4月 横浜市立大学 臓器再生医学 助手
 - 2014年1月 スタンフォード大学 幹細胞生物学研究所 客員准教授
 - 2015年1月 シンシナティ小児病院 消化器部門・発生生物学部門 准教授（現職）
 - 2017年6月 シンシナティ小児病院 オルガノイドセンター 副センター長（現職）
 - 2018年1月 横浜市立大学 先端医科学研究センター 教授（2019年より同大学特別教授（現職））
 - 2018年2月 東京医科歯科大学 統合研究機構 教授（現職）
 - 2023年1月 大阪大学大学院医学系研究科 器官システム創生学 教授（現職）

○主な受賞歴

2019年 日本学術振興会賞 2019年 日本学士院学術奨励賞 2021年 日本オープンイノベーション大賞

2023年度持田記念学術賞受賞者



岩坪 威 (いわつぼ たけし) 博士

東京大学大学院医学系研究科 脳神経医学専攻

神経病理学分野 教授

受賞研究テーマ

「アルツハイマー病の分子病態解明と発症機序に即した治療薬の臨床応用の実現」

岩坪博士は、老人斑アミロイドの主成分が凝集性の高いA β 42ペプチドであるという、アルツハイマー病態研究におけるセントラルドグマともいべき知見を確立し、家族性アルツハイマー病遺伝子プレセニリンの変異がA β 42産生を高めることを証明、A β を産生する γ セクレターゼ複合体の分子機構と構造機能連関を解明しました。

また、アルツハイマー病と密接な関係を有するレビー小体型認知症において α -synucleinを病因分子として同定し、その特異的リン酸化を証明しました。

さらにアルツハイマー病の治療薬実用化に向けて本邦のアルツハイマー病臨床研究者を糾合する大規模臨床研究を組織し、画像・バイオマーカーによる評価法を確立、グローバル治療薬治験を主導し、その成果を2023年、抗アミロイド β 抗体薬の第3相試験の成功と臨床実用化へと結実させました。

岩坪博士の研究成果はアルツハイマー病の分子病態の解明に基づき、メカニズムに即した治療に向けて道を開いた世界を先導する先見的・独創的な研究業績であります。

- 主な略歴
- 1960年2月14日生
 - 1984年3月 東京大学 医学部 卒業
 - 1984年6月 東京大学医学部附属病院 内科研修医
 - 1989年12月 東京大学医学部附属脳研究施設 脳病理学部門 助手
 - 1998年4月 東京大学大学院薬学系研究科 生命薬学専攻 臨床薬学教室 教授
 - 2007年9月 東京大学大学院医学系研究科 脳神経医学専攻 神経病理学分野 教授 (現職)
 - 2011年8月 東京大学医学部附属病院 早期・探索開発推進室 室長 (兼務)
 - 2020年4月 国立精神・神経医療研究センター 神経研究所 所長 (兼務)
 - 2022年4月 国立精神・神経医療研究センター 理事 (兼務)

○主な受賞歴

2012年 高峰記念第一三共賞 2021年 日本医師会医学賞 2022年 ベルツ賞

2023年度持田記念学術賞受賞者



黒崎 知博（くろさき ともひろ）博士

大阪大学 免疫学フロンティア研究センター

分化制御研究室 特任教授

受賞研究テーマ

「免疫記憶・ワクチン開発の基盤研究」

黒崎博士は、エレガントなレポーターマウスを樹立し、「メモリーB細胞の本来の役割は、二度目の変異ウイルスの感染時に必須であり、そのためには、メモリーB細胞抗体は高親和性ではなく、より柔軟に対応できるように、中-低親和性かつ広汎な反応性を保持している」というパラダイムシフトを引き起こす発見をしました。

さらに、メモリーB細胞は胚中心形成直後の、親和性成熟が十分に起こる前の胚中心B細胞から誘導されやすいことを発見しました。

また、プラズマ細胞分化へはメモリーB細胞分化とは異なり高親和性要求であることを示しました。

黒崎博士のこれらの液性免疫記憶のメカニズムに関する研究は、液性免疫の基礎研究の発展や革新的ワクチンの開発に貢献することが期待されており、世界を先導する先見的・独創的な研究業績であります。

- 主な略歴
- 1955年11月7日生
 - 1980年3月 岡山大学 医学部 卒業
 - 1987年3月 京都大学大学院医学研究科 修了 博士号取得
 - 1996年5月 関西医科大学附属肝臓研究所 分子遺伝学部門 教授
 - 1998年4月 関西医科大学附属肝臓研究所 所長
 - 2004年4月 理化学研究所 免疫・アレルギー科学総合研究センター 分化制御研究グループ
グループディレクター（2008年4月より非常勤）
 - 2008年4月 大阪大学 免疫学フロンティア研究センター 分化制御研究室 特任教授（常勤）
 - 2019年7月 大阪大学 免疫学フロンティア研究センター 副拠点長
 - 2021年4月 大阪大学 感染症総合教育研究拠点 特任教授（兼任）

○主な受賞歴

2001年 日本免疫学会賞 2012年 文部科学大臣表彰科学技術賞